

昭和十九・
二十年
度

東洋史研究文獻類目

京都大學人文科學研究所

昭和二十六年三月二十日 印刷
昭和二十六年三月二十五日 發行

非賣品

著者並
發行人 京都大學人文科學研究所

右代表者 吉 田 良 馬

京都市左京區北白川小倉町五〇

印刷者 鈴 木 直 樹

京都市中京區壬生花井町三

印刷所 日本寫眞印刷株式會社

京都市中京區壬生花井町三

例 言

一、本書は既刊の「東洋史研究文獻類目」の意圖をつぎ、東方文化に關する内外の研究について、昭和十九・二十年（民國三十三年・四年、康德十一・二年、西紀一九四四・四五年）の日附のある雑誌・論集所載の論文と單行本とを、それぞれ分類し、著者索引を附したものである。

一、昭和十七・八年度類目に入るもので、類目編纂後に入手した論文をも併せ録し、收録雑誌一覽で明にした。

一、論文・單行本とも書評のあるものは附記し、この年間以前に發行のもので、書評がこの年間に見えたものは、同様に收録したが、發行の年月、雑誌の卷次等によつて知られない。

一、歐文の翻譯殊に單行本に對して「*Text*」を注記するに力めたが、編纂に着手してからの試みで遺漏を免れがたい。

一、論文は略々當研究所の藏有に據り、單行本は半は當研究所の藏有に據り、併せて學内各學部圖書室、殊に法經圖書室、附屬圖書館或は和風圖書館等の藏儲をも調査した。心よく調査の便宜を與えられた方々に謝意を表したい。

一、昭和十五・六年度及び十七・八年度類目に冠した「學界展望」は學界の趨勢の定つた年であり、本類目ではこれを略した。

一、本書の編纂は文部省科學研究費の補助によつて遂行し得たものであり、續いて「自昭和二十一年至二十四年度類目」もすでに編纂を終えて、付印を待ちつゝある。

昭和二十六年三月十五日

倉 田 淳 之 助
鈴 木 隆 一

論文の部

收録雜誌論集一覽

邦文ノ部及ビ華文ノ部雜誌名ノ下欄號數ヲ右行ハ昭和十
九年、民國三十三年、康德十一年刊行ノモノ、左行ハ昭
和二十年、民國三十四年、康德十二年刊行ノモノデアル

邦文雜誌の部

- 亞細亞研究 三十一卷一號—十一號 (東京慶應義塾大學内、亞細亞研究
所刊)
- 大谷學報 二十四卷六號、二十五卷一・二號 (京都、大谷大學内、大谷
大學會刊)
- 回教圈 八卷一號—八號 (東京、回教圈研究所刊)
- 外交時報 百九卷—百十卷 (東京、外交時報社刊)
- 改造 二十六卷一號—十二號 (東京、改造社刊)
- 海外佛教事情 十卷二號三號 (國際佛教協會刊)
- 學海(學藝改題) 一卷一號—七號 (大阪、秋田屋刊)
二卷三號—七號
- 學藝 二卷一號—三號 (大阪、秋田屋刊)
- 漢學會雜誌 十二卷一・二號 (東京大學文學部支那哲文學研究室内、
漢學會刊)
- 北亞細亞學報 三輯 (東京、立教學院内、南亞細亞文化研究所刊)
- 教育 十二卷一期 (東京、岩波書店刊)
- 經濟論叢 五十八卷—一號六號 五十九卷一號—四號 (京都大學經濟學部内、
月刊ロシア) 十卷二號—十一號 (東京、日蘇通信社刊)
十一卷一號 三十四卷一號—八號 (考古學會編、東京、吉川弘文館刊)
- 考古學雜誌 三十四卷一號—八號 (考古學會編、東京、吉川弘文館刊)
- 興亞 五卷一號—六號 (東京、大政翼贊會興亞總本部刊)
- 國際文化 二十九號—三十一號 (東京、國際文化振興會刊)
- 支那 三十五卷一號—十二號 (東京、東亞同文會刊)

支那學 十一卷三號 (京都、支那學社編、弘文堂刊)

支那佛教史學 七卷三號 (支那佛教史學會編、
京都、法藏館刊)

史淵 三十輯—三十二輯 (福岡、九州史學會編、東京、富山房刊)

史學雜誌 五十五編十號—十二號 (東京大學文學部史料
編纂所内、史學會刊)

史觀 三十一冊 (東京、早稻田大學文學會刊)

史林 二十九卷一號—三號 二十九卷四號—三十卷一號—四號 (京都大學文學部内、史學研究會刊)

資源科學研究叢書 第五卷 (資源科學研究所彙報
第五號複製一卷二號) (霞ヶ關書房刊)

資料公報 五卷一號—十二號 (新京、滿洲國立中央圖書館籌備處刊)

自然 十四號 (上海自然科學研究所俱樂部學藝部刊)

輯安 八輯 (滿洲事情案内所刊)

斯文 二十六卷一號—十二號 二十七卷一號—三號七號—九號 (東京、斯文會刊)

社會經濟史學 十四卷一號—九號 (東京、社會經濟史學會刊)

上海自然科學研究所彙報 十四卷一號—五號 (上海、自然科學研
究所刊)

宗教研究 六年一輯二輯 (東京大學文學部宗教學研
究室内、日本宗教會刊)

書苑 八卷一號二號 (東京、三省堂刊)

書香 百五十四號—百五十八號 (滿鐵大連圖書館刊)

新亞細亞 六卷一號—十二號 (東京、南滿洲鐵道株式會社
東亞經濟調查局刊)

人類學雜誌 五十九卷一號—十二號 (東京大學理學部人類學教室内、
東京人類學會刊)

清閑 十九冊 (大阪、清閑社刊)

大東文化學報 十九輯 (東京、大東文化學院研究室刊)

太平洋 七卷一號—十二號 (東京、太平洋協會刊)

臺大文學 八卷四號五號 (臺北大學内、臺大文學會刊)

- 知性 七卷七號 (東京河出書房刊)
- 地政學 三卷一號—九號 (東京、日本地政學協會刊)
- 地理學 十二卷一號—三號 (東京、古今書院刊)
- 地理學評論 二十卷一號—三號 (東京大學理學部地理學教室內)
日本地理學會刊
- 中央公論 五十九年一號—十二號 (東京、中央公論社刊)
- 調查研究 一卷一號—五號八號九號 (東京、調查研究聯盟刊)
- 丁西論理會倫理講演集 五〇六輯 (東京、大日本出版社刊)
- 帝國學士院紀事 三卷一號 (東京、帝國學士院刊)
- 哲學研究 二十九卷三冊—八、九冊 (京都大學文學部內京都哲學會刊)
二十九卷十冊—十二冊
- 天界 二百七十號—二百七十一號 (滋賀、東亞天文學會刊)
二百七十三號—二百七十五號
- 同仁會報 第十六冊—第十八冊 (東京、同仁會刊)
- 讀書人 四卷四號 (終刊號) (東京、東京堂刊)
- 東亞 十七卷一號—十二號 (東京、東亞經濟調查局刊)
十八卷一號—二號
- 東亞醫學研究 三輯 (滿洲、奉天滿洲醫科大學刊)
- 東亞學 九輯 (東京、日光書院刊)
- 東亞經濟研究 二十八卷一號—二號 (山口高等商業學校內)
三號二十九卷一、二號 (東亞經濟研究會刊)
- 東亞研究 六十八號—七十號 (上海、東亞同文書院支那研究部刊)
- 東亞研究所報 二十六號—二十九號 (東京、東亞研究所刊)
- 東亞史研究 終刊號 (東京、生活社刊)
- 東亞人文學報 三卷三號四號四卷一號 (京都大學人文科學研究所刊)
四卷二號
- 東亞文化圈 三卷一號—十二號 (東京、東亞文化圈社刊)
四卷一號二號
- 東方學報 京都 十四冊二分—四分 (京都、東方文化研究所刊)
十五冊一分

- 東洋 四十七年二號—七號 (東京、東洋協會刊)
- 東洋學報 二十九卷三、四號 (東京、東洋協會學術調查部編輯)
- 東洋史研究 八卷五、六號新一卷一號、二號 (京都大學文學部內)
二百二十六號—二百三十四號 (東洋史研究會編)
- 東洋文化 二百二十六號—二百三十四號 (東京、東洋文化學會刊)
- 東洋文化研究 創刊號 (東京、東洋學會刊)
十號
- 南方資料館報 二卷一號—三號 (臺北、南方資料館刊)
- 南方人文研究所彙報 一號 (臺北大學構內、南方人文研究所刊)
- 日佛文化 九輯 (東京、日佛會館編)
- 日本評論 (東京、日本評論社刊)
- 日本佛學論叢 一輯 (日本佛教學院刊)
- 日本文化 二十三號 (奈良、天理教亞細亞文化研究所刊)
二十三號
- 一橋論叢 十三卷一號—六號、十四卷一號—六號 (東京、日本評論社刊)
八十五號八十六號八十八號九十號
- 美術史學 八十五號八十六號八十八號九十號 (東京、美術研究所刊)
- 美術研究 十三卷一號—六號 (東京、美術院附屬美術研究會編)
- 文化 十一卷一號—十二號 (東北大學文學會編、東京、岩波書店刊)
- 北窓 五卷五、六期 (哈爾濱、滿鐵哈爾濱圖書館刊)
- 北方研究 十一輯—十三輯 (東京、綜合北方文化研究會刊)
- 北方圈 一號—三號 (新京、北方圈學會刊)
- 法學協會雜誌 六十二卷二號—五號 (東京大學法學部內法學協會刊)
七號—十號十二號
- 寶雲 三十二冊三十三冊 (京都、寶雲刊行所刊)
三十四冊—三十六冊
- 法華 三十一卷—十二號 (東京、法華會刊)
- 滿洲學報 八・九號 (大連、滿洲文化協會內、滿洲學會刊)

滿洲帝國國立中央博物館時報 二十二號二十三號 (新京、國立中央博物館刊)

滿洲評論 通卷六百十九號—六百六十四號 (大連、滿洲評論社刊)

滿洲民族學會々報 二卷一號—四號 (新京、滿洲民族學會刊)

滿鐵調查月報 二十四卷一號二號 (大連、南滿洲鐵道株式會社刊)

民族學研究 二卷一號 (東京、民族學協會調查部刊)

民俗臺灣 四卷一號—九號十一號十二號 (臺北、東都書籍臺北支店刊)

密教研究 八十七號—八十九號 (高野山大學出版部刊)

蒙古 百四十三號—百四十八號 (東京、善隣協會刊)

龍谷學報 三百三十五號 (京都、龍谷大學內、龍谷學會刊)

立正大學論叢 十號 (東京、立正大學論叢編輯部刊)

歷史 十九卷一號—三號五號—七號 (東京、歷史教育會刊)

歷史學研究 十四卷一號—四號 (東京、歷史學研究會刊)

林東 八輯 (滿洲事情案內所刊)

華文雜誌の部

中德學誌 (五卷四期民國三十二年) 六卷一、二期 (北京、中德學會刊)

同聲月刊 三卷十號—十二號、四卷一號二號 (南京、同聲月刊社刊)

風雨談 十二期、十三期 (上海、風雨談出版社刊)

留日同學會季刊 三卷七期—九期 (北京、中國留日同學會季刊刊)

圖書季刊 新四卷二期三、四期(民國三十二年) 新五卷一期—四期 新六卷一期—四期 (重慶、國立北平圖書館圖書季刊編輯部刊)

學海 一號—三號 (南京、學海月刊社刊)

藝文雜誌 二卷一期、五期、六期、九期、十期 (北京、新民印書館刊)

讀書雜誌 一卷一期 (南京、讀書出版社刊)

漢學 一輯 (北京、中法漢學研究所刊)

歐文雜誌の部 (附略題)

FIJAS:..... Harvard Journal of Asiatic Studies, Vol. 8

(No. 1, 2), 1944.; Vol. 8 (No. 3, 4) Vol. 9 (No. 1),

1945.

SA:..... Sino-logische Arbeiten, 2. 1944.

論集の部

支那叢報解說 十一卷十五號 (東京、丸善株式會社刊)

世界史講座 (四)東亞世界史(二)・(五)西亞世界史 (東京、弘文堂刊)

東亞同文書院大學學術研究年報 一輯 (東京、日本評論社刊)

東亞の文化 學藝叢書一冊 (東京、帝室博物館刊)

東洋史會紀要 四冊 (東京、東洋史會編輯刊)

南支南洋研究 第四十號 (臺北、南支南洋研究會刊)

佛教文化研究 一輯 (東京、法藏館刊)

民俗研究所紀要 一冊 (東京、民俗研究所刊)

論文の部・分類表

1 一般史……………	七頁
一 通論	
二 史籍	
三 通史・時代史	
四 諸國史 東方・南方・西方・北方	
五 傳記	
2 歴史地理……………	一〇
一 通論	
二 古地理	
三 古籍	
四 遊記	
五 方志 諸國志	
3 社會史……………	一三
一 通論	
二 階級	
三 家族	
四 戶籍	
五 人口	
六 部落團體・農村問題	
4 經濟史……………	一四
一 通論	
二 土地制度	
三 產業	
四 商業	
五 交通・貿易 附華僑	
六 貨幣・金融	
七 財政	
5 政治史……………	一八
一 政治	
二 列強關係	
6 法制史……………	二〇
一 法律	
二 制度	
7 宗教史……………	二二
一 通論	
二 支那古代宗教	
三 道教	
四 佛教 總記・典籍・教學・佛教史	
五 印度諸宗教・哲學・梵文學	
六 基督教	
七 回教	
8 學術思想史 附教育……………	二三
一 通論	
二 群經	
三 諸子	
四 日本・朝鮮漢學	

五 教育	
9 科學史	二五

一 通論	
二 天文・曆術	
三 算數	
四 醫學・藥學・博物	
10 文學史 附 音樂	二六

一 通論	
二 文集	
三 騷賦	
四 詩	
五 詞	
六 曲	
七 文	
八 小說	
九 現代文藝	
十 諸國文學	
十一 音樂	
11 美術史	二六

六 工藝	
12 考古學	二九

一 通論	
二 舊石器時代	
三 新石器時代	
四 青銅器時代	
五 鐵器時代	
13 金石・古文書學	三〇

一 通論	
二 甲骨文	
三 金文	
四 石刻	
五 雜器銘	
六 貨泉	
七 古文書	
14 民族學	三一

一 通論	
二 民族	
三 習俗	
四 神話・傳說・口承文藝	
五 信仰	
15 言語文字學	三四

一 通論	
二 古籍	

18	17	16
學界消息……………	雜纂……………	書誌學……………
三	三	三
	二 書目・解題	一 通論
	三 版本・校勘	
		八 諸國言語
		七 國語問題
		六 語源志
		五 文法
		四 音韻
		三 形義

論文の部

1 一般史

一通論

0001	東亞民族問題の意義	加田哲二	亞細亞研究三十一卷一號
0002	アジア民族運動史	田中直吉	世界史講座(第四卷)東亞世界史(二)
0003	新東洋文化の建設	石井文雄	外交時報百十卷五號
0004	東亞問題の四十年	越智元治	東亞經濟研究二十九卷一・二號
0005	歷史五講	張爾田	同聲月刊四卷二號
0006	沙漠的人間	イブン・ハルドウンの歷史哲學	齋藤信治 新亞細亞六卷三號
0007	東西文化交通史史料の一研究	小長谷惠吉	資料公報五卷七號
0008	漢民族の同化力説に就いて	羽田亨	東洋學報二十九卷三・四號(白鳥博士記念論文集)
0009	支那文化の特徴について	山田厚	東亞同文書院大學學術研究年報一輯
0010	論中國文化及其宗教道德	張爾田	漢學一輯
0011	日支文化提携と大東亞の將來	高田眞治	斯文二十七編一・二・三號
0012	近世日支の文化的交流	中山久四郎	斯文二十六編八・九・十號
0013	近代中國文化の性格	一戶務	斯文二十六編六・七號
0014	支那の將來	米内山庸夫	外交時報百九卷二號
0015	東亞史學習の意義	佐中壯	歷史十九卷一號
0016	漢學か支那學か	荒井瑞雄	斯文二十六編二號
0017	支那學の問題	高田眞治	斯文二十六編三號
0018	支那學不振三論	田所義行	斯文二十六編三號

頁數	三六	九	二〇	三	八	七	二	五	一八	六	九	六	八	五	六	九	一四
001三	001四	001五	001六	001七	001八	001九	002〇	002一	002二	002三	002四	002五	002六	002七	002八	002九	003〇

二史籍

0024	史記律書釋文	冒廣生	學海一卷二冊
0025	史記天官書恒星考	清永嘉一	東方學報京都十四冊三分
0026	遷史瑣言	卷阿	學海一卷五冊
0027	漢志藝文略	孫德謙	學海一卷三冊
0028	後漢書耿弇傳屠城三百非實說	吳廷燮	學海一卷四冊
0029	汲冢竹書攷	陳夢家	圖書季刊新五卷二・三期
0030	逸周書器服解釋文	冒廣生	學海創刊七月號
0031	讀北魏書崔浩傳書後	知止齋主	學海一卷四冊
0032	南史考證補	季汝梅	學海一卷五冊・四冊
0033	書隋書突厥傳大義公主詩後	陳杜庚	學海一卷五冊
0034	史通增釋序	羅常培	圖書季刊 新五卷四期
0035	大唐六典目次	佐伯富	東亞經濟研究二十八卷三號
0036	北宋校刊南北八史諸臣考	陳垣	輔仁學誌十二卷一・二合期
0037	資治通鑑纂修始末	張芝聯	漢學一冊
0038	資治通鑑目錄	佐伯富	東亞經濟研究二十八卷一號
0039	紹熙雲間志攷證	湖外小山	學海一卷二冊

四	七	六	五	七	二	三	九	八	二	五	二	六	三	三	六	一	五	五	三
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

〇四〇	趙汝适の諸蕃志に就て	石田幹之助	東亞史研究終刊號	三	〇五九	遼方鎮年表	羅繼祖	滿洲學報八・九輯	六
〇四一	世本宋衷注考	孫海波	留日同學會季刊三卷四期	七	〇六〇	元の諸帝の文學(三)——(五)	——元史叢說の一——	吉川幸次郎	三八
〇四二	元刊「通典詳節」について	瀧川政次郎	資料公報五卷六號	四	〇六一	元德寧等七路一府攷	吳廷燮	學海一卷五冊	三
〇四三	羅氏所藏の草本日記檔に就いて	——努爾哈齊實錄改修過程の一稿本の研究——	篤淵一、戸田茂喜、滿洲學報八・九輯	四	〇六二	元朝行省の成立過程	前田直典	史學雜誌五十六編六號	三
〇四四	明實錄雜考——影印本を中心として——	淺野忠允	北亞細亞學報三輯	三	〇六三	明の時代性について	——太祖の統治方針を中心とする——	田村實造	三
〇四五	聖武開天記に就いて	石濱純太郎	東洋史研究八卷五・六號	二	〇六四	清初諸王爭國記	趙光賢	輔仁學誌十二卷一・二合期	三
〇四六	滿和對照滿文老檔(三一—六)	今西春秋	書香十六卷一、二、四、五號	九	〇六五	Heissig, Walther: Ein mongolisches Textfragment über den Olötönfürsten Galdan.	(S A 2) p. 92-160.		
〇四七	文史通義內篇後案	沈任	學海一卷四・五冊	一五	〇六六	睿親王多爾袞の征西路考	園田一龜	滿洲學報八・九輯	一四
〇四八	知止齋讀史劄記	知止齋主	學海創刊七月號・一卷二冊・一卷三冊	三	〇六七	墨皇正閏考	亞鳳	學海一卷三冊	五
〇四九	黃帝論	佐藤匡玄	北方園一號	四	〇六八	李秀成供狀について	和田清	東亞史研究終刊號	三
〇五〇	伐桀伐紂之歲考	盧景貴	留日同學會季刊三卷四期	四	〇六九	阿片戰爭關係資料	百瀨弘解	支那叢報解說十一卷	六
〇五一	周初の年代について	橋本增吉	立正大學論叢十輯	二	〇七〇	一八四二年時事綜覽	百瀨弘解	支那叢報解說十一卷	六
〇五二	周代の蠻貊について	和田清	東洋學報二十九卷三・四號(白鳥博士記念論文集)	六	〇七一	近十年支那時事日誌	百瀨弘	支那叢報解說十一卷	六
〇五三	古史紀年攷略	簡樸	學海一卷三冊	六	〇七二	廣東事情及び廣東入城問題	玉井茂解	支那叢報十五卷	六
〇五四	兩漢を通じて見たる列侯と其の封邑との關係	小林昇	東洋史會	七	〇七三	西康に於ける漢藏關係	中島敏講	史學雜誌五十五編一號	二
〇五五	漢眞番郡說	吳廷燮	學海一卷二冊	七	〇七四	英國の新彊侵略と新段階	村山公三	蒙古十一卷三號	七
〇五六	北魏六鎮攷辨	朱師轍	輔仁學誌十二卷一・二合期	三	〇七五	決戰下北支の現状	——現地報告——	東亞十七卷八號	三
〇五七	宋元時代の紅巾軍と元末の彌勒・白蓮教匪に就いて	松重俊章	史淵三十二輯	三	〇七六	決戰下の南方支那	東亞十七卷四號		二
〇五八	東蒙古遼代舊城探考記抄	馮承鈞原著	林東七輯	五	〇七七	重慶の西北工作とその新段階	三浦薰雄	蒙古十一卷十號	二
					〇七八	現代支那史劄記(三)(四完)	東亞十七卷一、二號		六
					〇七九	支那西北の將來(一)(二)	米内山庸夫	外交時報百十卷三・五號	八

〇〇八〇 統一史觀に基く中國現代史の方法(上)(下) 岡本正 東亞研究二十四卷 四・五號

四 諸 國 史

1 東 方

〇〇八一 史實と考證 一魏志東夷傳の辰國と辰王 三品彰英 史學雜誌五十五編一號

〇〇八二 支那側より觀たる元寇の役 重松俊章講 史淵三十二輯

〇〇八三 滿洲・シベリヤの開発について 和田清 北窓五卷五・六期

〇〇八四 滿鮮地帯の歴史 三品彰英 世界史講座(四卷)東亞世界史(二)

〇〇八五 奉天會戰々勝の眞因 尾高龜藏 北方園三號

〇〇八六 ビロビジャン猶太人植民地 一特にその設立の意義について 岡本信太郎 史林三十卷二號

2 南 方

〇〇八七 南方地域 松本信廣 世界史講座(四卷)東亞世界史(二)

〇〇八八 多摩長に就いて 松田壽男 史學雜誌五十五編五號

〇〇八九 廣南の象 大森志朗 北方園三號

〇〇九〇 於ける印度支那研究 金永健 新亞細亞六卷八號

〇〇九一 安南國太子致明人魏九使書考 園田一龜著 羅伯健譯 留日同學會季刊三卷二期通卷七號

〇〇九二 獨立比律賓の民族問題 山本忠一 地政學三卷一號

〇〇九三 日本民族と比律賓 一歴史を貫くもの 一宮西豐逸 太平洋七卷十號

〇〇九四 南洋と支那大陸 杉本直治郎 世界史講座(四卷)東亞世界史(二)

〇〇九五 印緬戰線の全貌とその性格 東亞十七卷四號

〇〇九六 緬印戰線の解剖 東亞十七卷三號

〇〇九七 迦賦色迦時代之漢質子 馮承鈞 漢學一輯

〇〇九八 印度に及ぼせる東亞影響 松本信廣 亞細亞研究三十一卷六號

四七 〇〇九九 印度史概觀 足利惇氏 世界史講座(四卷)東亞世界史(二)

〇一〇〇 南セレベス土侯國抄史 一ゴア及びワジョー 河原史男 新亞細亞六卷二號、三號

〇一〇一 バレンバンの古代文化に就いて 天津慈雲 南方資料館報二卷三號

〇一〇二 濠亞地中海に於ける佛領印度支那の位置價値の變化 江澤謙爾 地政學三卷二號

〇一〇三 Jansen, Olov R. T.: Notes on Chinese Influences in the Philippines in Pre-Spanish Times. (IJAS 8) p. 34-62.

〇一〇四 宋代の大秦國に就いて 榎一雄 史學雜誌五十六編五號

〇一〇五 磧西節度使について(一)(二完) 伊瀬仙太郎 歷史學研究十四卷一、二號

〇一〇六 西亞に石油帝國を爭ふ 稻原勝治 東洋四十七年五號

〇一〇七 モロ戰争(十三)一(十五) 法貴三郎 新亞細亞六卷一—三號

〇一〇八 マイソール土侯國 高島正雄 新亞細亞六卷二號

〇一〇九 ハールーン・アルラシードとシャーレマーニユ(一) 岡島誠太郎 回教園八卷五號

〇一一〇 ペルシヤ灣 一英國支配の成立と其の展望 船越謙策 史林二十卷三號

〇一一一 二十年間のアラビヤ學(二) 伊・ユ・クラチコフスキイ著 田村秀文譯 回教園八卷一號

〇一一二 匈奴史上に於ける二三の考察 野村耀昌 立正大學論叢十輯

〇一一三 南北匈奴分裂の問題をめぐつて(上)(下) A.N.ベルンシユタム著 (Iz Ist. Orii. Etnov. IV. n. 6) 重石正己譯 蒙古十一卷七、八號

〇一一四 後魏柔然表 一中古蒙古史の編年史的整理の意圖をかねて 一内田吟風 東洋史研究八卷五・六號 新一卷三號

〇一一五 渤海中京考 鳥山喜一 考古學雜誌三十四卷一號

〇二六 兀惹部の發展(二)―(四) 日野開三郎 史淵三十・三十一―三十
三輯

〇二七 烏拉國とその人々 北山康夫 北方園一號

〇二八 清初薩哈連部考 島田好 滿洲學報八・九輯

〇二九 「獨逸外務省外交文書集」所收 滿洲關係文書目錄(1) 書香十六卷五號

〇三〇 滿洲蒙古の封建制の掃蕩と躍進 山根順太郎 蒙古十一卷四號

〇三一 漠南路 卷一號 一はゆる「蒙疆」の歴史性について― 松田壽男 歴史十九
5 傳 記

〇三二 Martin, Ise.:—Das Lieh-nü-chuan und seine Illustrationen seit der Sung-Zeits. (SA 2) p. 161~86.

〇三三 漢魏間人對於諸葛武侯之評論 宿白 留日同學會季刊三卷四期

〇三四 魏宗室東陽王榮與敦煌寫經 趙萬里 中德學誌五卷三期

(右批評) Loehr, m.:—(SA 2)

〇三五 顧震治撰王荊公年譜正誤 千菴 學海一卷三冊

〇三六 黃東發之卒年 陳垣 輔仁學誌十二卷一・二合期

〇三七 李志常之卒年 陳垣 輔仁學誌十二卷一・二合期

〇三八 趙士楨傳 王重民 圖書季刊新五卷一期

〇三九 結埼亭集謝三賓考 柴德康 輔仁學誌十二卷一・二合期

〇四〇 尙祐卿傳 王重民 圖書季刊新五卷一期

〇四一 高公行狀に就いて 江島壽雄 資料公報五卷十一號

〇四二 孫隘塘年譜初稿 吳丕績 學海創刊七月號

〇四三 ヱィヅエーカーナンド出現の意義 渡邊照宏 新亞細亞六卷八號

〇四四 臨潢柏俊靜濤守陵密記 鄧之誠 中德學誌五卷三期

(右批評) Loehr, m.:—(SA 2)

2 歴史地理

一通 論

〇三五 地理學文献について 増田忠雄 資料公報五卷四號

〇三六 大東亞戰域海流と水産 新野弘 地政學三卷六・七號

〇三七 西南支那の開発について 和田清講 史學雜誌五十五編八號

〇三八 古代ギリシャ人と大東亞の地圖 Hermann A. 蒙古十一卷九
十號

〇三九 支那沿岸地誌(上) 東亞十八卷二號

〇四〇 Chou, Yi-liang:—Notes on Marvazi's Account on China, (IJAS 9) p. 13~23.

〇四一 Yao, Shan-yu:—Flood and Drought Data in the T'u-shu chi-ch'eng and Ch'ing shih Kao. (IJAS 8) p. 214~26.

二古 籍

〇四二 跋地緯 王重民 圖書季刊新六卷一・二期

〇四三 秦邊紀略書後 沈曾植 學海創刊七月號

〇四四 治河方略とその異本 彌吉光長 資料公報五卷一號

〇四五 駁正福建新通志修纂沿革史篇 左海僑 學海一卷三冊

〇四六 光緒十七年吉林各地方咨冊檔と吉林通志編刊年次に就
て 江嶋壽雄 資料公報五卷三號

三古 地 理

〇四七 元和林故城在額爾德尼昭考 吳廷燮 學海創刊七月號

四方 志・諸 國 志

〇四八 山海關 藤山一雄 滿洲帝國國立中央博物館時報二十二號

〇二四九	冬・河南省で	坂井德三	蒙古十一卷九號
〇二五〇	西北支那の地理的基礎	一 陝甘寧黄土高原 辻本芳郎 蒙古十卷二號	
〇二五一	記敦煌石室出晉天福十年寫本壽昌縣地境	向達 圖書季刊 新五卷四期	
〇二五二	上海雜誌	等 一 玉井茂解説 支那叢報解説十五卷	
〇二五三	近代支那に於ける人物の地理的分布上蘇浙兩省の地位について	西山榮久 東亞經濟研究二十九卷一・二號	
〇二五四	湖州東苕溪沿岸の開発に關する一考察	佐々久 文化十一卷二號	
〇二五五	福州雜記	黃豆中 民俗臺灣四卷十二號	
〇二五六	福州事情	玉井茂解説 支那叢報解説十五卷	
〇二五七	高雄州旗山の町の歴史	富田芳郎 民俗臺灣四卷三號	
〇二五八	安平を語る	石陽暉 民俗臺灣五卷一號	
〇二五九	臺灣關係文獻解題(海國聞見錄)	楊雲萍 民俗臺灣四卷四號	
〇二六〇	厦門の地理的環境及沿革	神島倉吉 民俗臺灣四卷八號	
〇二六一	海南島見聞記(一)―(七)	森於菟 民俗臺灣四卷三、五、六、八、九、十、十一號	
〇二六二	海南島の地形學的課題	富田芳郎 地理學評論二十卷二號	
〇二六三	雲南の地形と地質	川田三郎 資源科學研究叢書五卷	
〇二六四	新疆省概観	小林林平譯 南支南洋研究四十號	
〇二六五	滿洲に於ける扇狀地の性質と利用開發	須藤萬治 地理學十二卷二號	
〇二六六	開魯開發略史	白井章 研究院月報四十三號	
〇二六七	開原古州及び毛憐	和田清 北亞細亞學報三輯	
〇二六八	滿洲の森林(上)	彼末山樵 東洋文化 二百三十三號	
〇二六九	國立北平圖書館近年入藏方志簡目	圖書季刊新六卷一・二期	
〇二七〇	Chu, Shih-chia:— Chinese Local Histories at Columbia		

五	University. (IJAS S) p. 187-95.	
一八	厚和市附近の地形	中野尊正 蒙古十一卷二號
〇二七一	「蒙疆の特殊性」の歴史的省察	蒙古十一卷三號
〇二七二	草原的文化の基調的構成	羽藤秀利 蒙古十一卷九號
〇二七三	支那トルキスタンを中心とする草原及び泉地の展開	辻本芳郎 蒙古十一卷九號
二	ゴビアルタイ地方の地質構造と地史	ア・ア・マツカベエ 著 竹原四郎譯 資源科學研究叢書五卷
九	東シベリヤ風土記	K・メーネルト 月刊ロシヤ十卷四・五號
四	北氷洋に注ぐソ領北東河川の研究	宇留野衛 北方研究十二卷十三號
一四	在臺灣南方關係文獻資料に就て	素木得一 南方資料館報二卷三號
三	雜誌「太平洋」南方關係記事索引(昭和十四―十八)	南方資料館編
二	南方經濟研究所發行「研究資料」主要記事索引	南方資料館編
一	南方調查研究の對象と方法	坂本德松 調查研究創刊號
九	南方實地調査に關する管見	小西于比古 調查研究創刊號
四〇	南太平洋に就て	高山謹一 資料公報五卷八・九・十合號
四	印度支那の都市	フロラン・ギラン著 服部親行譯 日佛文化新九輯
一四	インド支那の言語と民族	ジャン・ドランヌ著 津田逸夫譯 日佛文化新九輯
三	安南の印象	山下憲治 民俗臺灣四卷十一號
五	佛領印度支那の火成岩	石橋正夫 資源科學研究叢書五卷
二八	東緬山系初期踏査誌(上)(下)	Iugh Clifford: "The Story of Exploration; Futher India. 井出淺龜譯編 新亞細亞六卷十二號、七卷一號
三		
二六		
二八		
二七		
二八		
二八		

〇二八九	ビルマの話 井上頭一郎 同仁會報十七冊	〇二二〇	インドの「アッサム」に就て 東亞十七卷四號	一六
〇二九〇	アキバの歴史 松田玄一 新亞細亞六卷四號	〇二二一	グルカ兵の郷土ネパール 東亞十七卷七號	七
〇二九一	フィリピン沿岸地帯の狀態 渡邊光 太平洋七卷十號	〇二二二	アラビヤ地理學 阿島誠太郎 世界史講座(五卷)西亞世界史	三
〇二九二	比島の民族と文化(一)(二完) 北久一 新亞細亞六卷五・六號	五遊記		
〇二九三	ハルマヘラ諸島誌(北部モルツケン群島) 太平洋協會調查局 太平洋七卷五號	〇二二三	山西省蒲州踏査の記 小笠原宣秀 龍谷學報三三五號	九
〇二九四	マダガスカル島の地質系統及び鑛産 星野耕一 資源科學研究叢書五卷	〇二二四	保定紀行 瀾滄子 藝文雜誌二卷六期	三
〇二九五	ボルネオの思ひ出 大城兵藏 民俗臺灣五卷一號	〇二二五	北中支遇見(一)(二) 奥野光紀 支那三十五卷十一、十二號	五
〇二九六	中部太平洋諸島の概観 太平洋協會調查局 太平洋七卷四號	〇二二六	南京への旅から歸つて 長與善郎 文藝春秋二十三卷二號	九
〇二九七	北東ニューギニア西部セビツ河流域地誌 太平洋協會調查局 太平洋七卷四號	〇二二七	長沙の憶ひ出 七理重恵 支那三十五卷八號	五
〇二九八	ニューギニア事情 野田光雄 滿洲帝國國立中央博物館時報二十二號	〇二二八	西螺探訪記 富田芳郎 民俗臺灣四卷八號	五
〇二九九	ワギ河流域 ニューギニア地誌資料 中野弘 地理學十二卷一號	〇二二九	那大から石碌へ 大塚令三 滿洲評論二十六卷二十一號	四
〇三〇〇	バリ島の生活・宗教・藝術 ジェオフレイ・ゴラー著 植村鷹千代抄譯 新亞細亞六卷一號	〇三〇一	烏拉行紀 彌吉光長 北方園一號	五
〇三〇一	東方珊瑚礁島 テ・ランギ・ヒロア著 郡司喜一抄譯 新亞細亞六卷十一號	〇三〇二	南へ南へ(一) 對談 徳田貞一 地理學十二卷一號	三
〇三〇二	北西の礁湖 テ・ランギ・ヒロア著 新亞細亞六卷七號	〇三〇三	アロン灣とホンゲイ炭礦 對談 徳田貞一 地理學十二卷二號	二
〇三〇三	マルディヴ群島の産物 一その東亞の文化に對する意義に就いて 前嶋信次 新亞細亞六卷十一號	〇三〇四	スマトラ・ジャワ視察記 古野清人 新亞細亞六卷六號	四
〇三〇四	東印度關係邦文文獻(三)―(十一) 北傳 新亞細亞六卷二―十一號	〇三〇五	マライ・タイ・佛印視察記 古野清人 新亞細亞六卷九號	三
〇三〇五	南方地域文獻資料目録 一8東印度の部其1― 南方資料館編	〇三〇六	印度紀行(一)―(三) ジャワ・ハルマヘラ・ネール著 野田福雄譯 新亞細亞六卷十一、十二號七卷一號	元
〇三〇六	南方地域文獻資料目録 一7印度の部其2― 南方資料館編	〇三〇七	Yang Chih-chiu (楊志玖) and Ho Yung-chi (何永佑) Marco Polo Quits China. (YJFAS 9), p. 51.	三
〇三〇七	南方地域文獻資料目録 一7印度の部其3(附セイロン島)― 南方資料館編	〇三〇八	ワイリよりユールへの書翰 一マルコポーロの支那地名を繞りて― 彌吉光長 書香十六卷一號	三
〇三〇八	ベンガルの地政概観(上) (Vorderindien und Ceylon, 1939) Krehes, N. 新亞細亞六卷二號	〇三〇九	十九世紀以後のアジア探検とその成果 ベイカー著 蒙古研究所譯	三
〇三〇九	印度問題に於けるベンゴール地方の重要性 伊東敬 新亞細亞六卷二號	〇三〇九	滿文本「異域錄」に就いて 今西春秋 書香十六卷二號	五

〇三〇	滿文本「異域録」に就いて(補)	今西春秋	書香十六卷四號
〇三一	ソ聯のカムチャッカ探検誌(續)	中村融譯	北方研究十一輯
〇三二	劉錫鴻の「英軼私記」について	木村正一講	史淵三十二輯

3 社會史

一通論

〇三三	支那社會の根本問題	上妻隆榮	東亞經濟研究二十九卷一・二號
〇三四	支那の社會と民族	白井二尙	東亞人文學報四卷一號
〇三五	佛領印度支那の社會生活	天理教亞細亞文化研究所佛印班譯	日本文化二十三號

二階級

〇三六	南朝之北土地位	余遜	輔仁學誌十二卷一・二合期
〇三七	北朝に於ける貴族制度(下)	宮川尙志	東洋史研究八卷五・六號
〇三八	胥吏の倍備を中心として	史林三十卷一號	支那官吏生活の一面——宮崎市定
〇三九	清初の胥吏	社會史的考察——細井昌治	社會經濟史學十四卷六號
〇四〇	バルトの印度人勞働者 (“Indian Labour in Burma” 1933 の一章)	Rao, A. N. 佐藤武夫譯	新亞細亞六卷四號
〇四一	緬印間の印度移民船 (“Indian Labour in Burma” 第三章)	Rao, A. N. 佐藤武夫譯	新亞細亞六卷八號
〇四二	インド勞働者の問題 (“The Indian Peasant Uprooted” London, 1931)	田園から工場——Read, M. 笠原輝次抄譯	新亞細亞六卷二號
〇四三	印度の階級社會	善波周	世界史講座(四卷)東亞世界史(二)

三家族

二	〇四四	東洋の「家」	及川儀右衛門	支那三十五卷二號	四
三	〇四五	中國家譜通論(續)	楊殿珣	圖書季刊新六卷三・四期	二四
一	〇四六	華北農村に於ける家族分裂の實態	仁井田陞	東洋文化研究四號	三五
	〇四七	清初に於ける婚姻事例	資料公報五卷十二號	河西一夫	四
	〇四八	婚書	瀧川政次郎	資料公報五卷二號	九
	〇四九	日本と支那の家族制度	和田清	知性七卷七號	七
	〇五〇	オモツクの形態から觀た家族	野津彰	蒙古十一卷八號	八
	〇五一	北アジアの諸民族に於けるレヴィレート	田中克己	細亞學報三輯	六
	〇五二	安南法に於ける一夫多妻制度	毛織大順譯	東亞研究所報二十七號	七
	〇五三	日唐令による戶籍計帳と宋代戶籍の源流	曾我部靜雄	社會經濟史學十四卷六號	三
	〇五四	支那人口論	小竹文夫	東亞同文書院大學學術研究年報一輯	四
	〇五五	支那の都市に於ける一戸平均人口	牧野巽	東亞史研究終刊號	四六
	〇五六	支那農村は人口過剩か	阿部源一	支那三十五卷六號	三
	〇五七	滿洲都市人口動態の地域性	山口平四郎	滿鐵調查月報二十四卷一號	五三
	〇五八	朝鮮湖南地方の人口増減	淺香幸雄講	地理學評論二十卷一號	四
	〇五九	昭和十七年河内市出生死亡率(印度支那經濟雜誌第四年三號所載)	金永建	亞細亞研究三十一卷四號	一
	〇六〇	支那の秘密結社三合會(天地會)	岩井大慧解説	支那叢報解説十四卷	一八